

土器サミット in 今治

～古墳時代初頭にやってきた土器たち～

【展示期間】令和4年8月19日～令和4年12月11日

はじめに

今治市ではこれまで多くの市内遺跡の発掘をおこなってきました。今回の展示はその中でも他地域からやつてきた外来系土器に注目した展示となっています。

地域ごとに特有の土器があり、土器の違いは方言に例えられることがあるほどです。古墳時代初めという時代は各地域の人々が個性的な土器やその技術を携え移動する時代です。今回の展示では個性豊かな外来系土器を今治に集った土器たちのサミット風に紹介します。

時期の呼称

しうとう ゼンカインバン やよいじだいしゃうまづき
古墳時代初頭から前期前半は大まかに2・3世紀に当たります。古墳時代初頭は弥生時代終末期と呼ばれることもありますが、今回の展示では古墳時代初頭という呼称を採用しています。

各地域代表の土器



土器サミット開幕!!



今治の土器代表

土器サミット司会は私、今治の土器が務めるけんね。各地域からおこしの土器のみなさんに自己紹介をお願いする前に、私自身を紹介しよわい。

私は今治在地の甕やけん。胴長な体型で、粗い刻みが入った叩き板で叩きながら形を整えられた跡が特徴なんよ。

それでは皆さん、自己紹介を頼まいねー。



粗い叩き目



叩き調整イメージ



畿内系土器代表

僕は畿内系の甕やで。形は丸みがあって底はとんがり気味の丸底になってんねん。頸から口にかけてはシャープに折れ曲がっとって、口の部分の上端がちょっと摘み上げられてんのがチャームポイントやで。内側が薄なるよう削られとて、厚みは大体 2mm くらいやねん。細かい刻みのはいった叩き板で叩いて整形されてるんも特徴なんやで。



細かい叩き目



摘み上げられた口の端部

補足

(1) 今回、畿内系土器の代表としたのは、河内型圧庄式と呼ばれる甕で、畿内から持ち込まれたと考えられる撒入品です。



吉備系土器代表

きひけい かめ
わしやあ吉備系の甕じゃ。口んとこが二段になつ
とつて、外に開いた一段目から二段目が直立しとんが
一番の特徴なんじゃ。二段目に
は柳描文ってゆう、よーさんの
横線で飾つとる。まりい形しとつ
て、畿内ほど薄うはねえけど、
でえーれー薄いんじゃ。



口の部分の柳描文



岡崎系土器代表

きみさき **じもかわつB るいどき (2)**
僕は讃岐系の甕やで。下川津 B 類土器と呼ばれる甕で、短く折れ曲がった口
の部分と肩が張るような形が
特徴なんよ。材料の粘土に特
に角閃石がよくおけ入つとつ
て、内面が削られて薄く仕上
げられるとんやで。



土器上半の調整：刷毛目

土器下半の調整：ヘラ磨き



東阿波系土器代表

ひがしあわ (3) にじゅうこうさんつぼ
僕は東阿波系の二重口縁壺っていうん
じよ。徳島県の吉野川流域に多い結晶片岩の
粒を材料の粘土中に含んどることが大きな特
徴なんよ。口の部分には凹線風の横ナデもみ
られるんじょー。



凹線風の横ナデ



山陰系土器代表

さんいんけい きだい
わたしは山陰系の器台だけん。
底が丸い壺なんかをのせるのに使
われちよったよ。横から見た形が
楽器の鼓に似ちようけん、鼓形器
台と呼ばれちよーわ。



土器がのせられた鼓形器台



楽器の鼓



- (2) 下川津 B 類土器は伝統的な技法を色濃く残すことが特徴です。甕の場合、弥生時代後期前葉には見られなくなる土器下半に施すヘラ磨きの伝統を維持しています。
- (3) 今治で見つかっている、東阿波系土器はこの1例だけで、形は東阿波では決して主流のものではありませんが、各地への出土が確認されているようです。



今治の土器代表

各地域の土器代表のみなさん、ありがとうございます。ほやけど、なんで、いろんな地域の土器が今治にあるんやろか？下の解説みてみとん。

今治の交流拠点

頓田川左岸の舌状の微高地には松木広田遺跡をはじめとする松木遺跡群が広がっています。松木広田遺跡では畿内、吉備、讃岐、東阿波系土器が見つかっており、鹽では約4割を外来系土器が占めます。また、松木広田遺跡よりも海岸よりに位置する上徳上胡遺跡では塙の約7割が外来系です。通常の遺跡では多くとも外来系土器は1割未満であるのに比較すると、両遺跡の状況は特異といえます。松木遺跡群が拠点的に集落、現在よりも内陸にあつた当時の海岸線により近い上徳上胡遺跡が交流の玄関口となる港湾性集落であったことが想定されます。

古墳時代初頭の今治には交流拠点となる松木遺跡群、交流の玄関口となる上徳上胡遺跡があったため、これらの集落に他地域の人々が移動したり、定着したと考えられます。そのため今治では多くの外来系土器がみつかっています。



松木広田遺跡・上徳上胡遺跡の外来系土器



おわりに

今回の展示では擬人化した土器に、サミット風に解説してもらいましたが、土器が意思をもってひとりでにやってくることは決してありません。今治で他地域の土器が発見されているという事実の背後にある実体は今から1700年以上前の人々の移動と交流です。今治に他地域の土器があるということは、当時の人々が手漕ぎの船や自らの足で各地から今治へやってきたり、今治から各地へ赴いたりしたことを物語っています。

別紙 1

各地域代表の土器

